

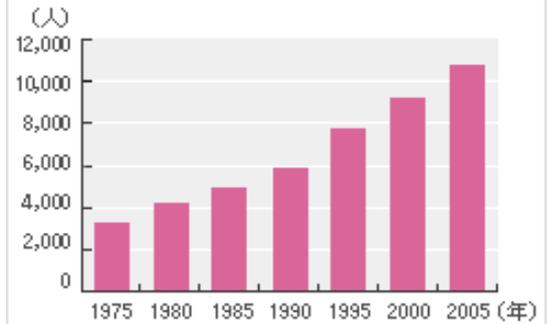


## 乳がんの基礎知識

20人に1人。日本人女性が乳がんにかかる割合は驚くほど高い

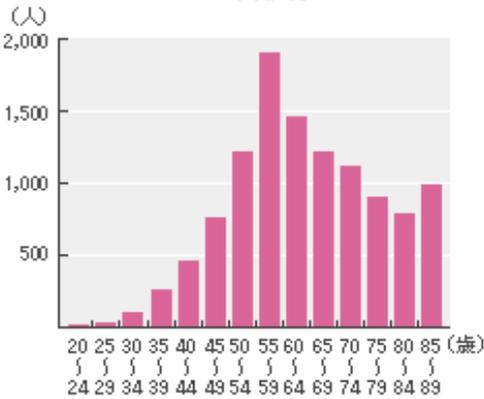
食生活の欧米化、出産の高齢化などとともに、乳がん患者は急増しています。1996年には乳がんが日本人女性のがん罹患率第1位になりました。年間約40,000人の女性が乳がんを患うとされ（約20人に1人の割合）、死亡数も年々増えています

乳がんの死亡数別年次推移



女性の30～40代は乳がんにかかるレッドゾーン

乳がんの年齢別死亡数



乳がんにかかる人が多いのは30～40代の女性。最もリスクが高まるのは40代後半ですが、20代でも発症が認められています。「まだ若いから」と無関心ではいられません。乳がんは一般的に次の様な人がなりやすいといわれています。

- ・初産の年齢が30歳以上の方
- ・出産経験のない方
- ・初潮年齢が早かった方(11歳以下)
- ・閉経年齢が遅かった方(55歳以上)

しかし、出産・授乳経験があっても、閉経後でも乳がんになる場合があります。年代にかかわらず、乳がんの危険性を認識したいものです。

## 早期発見で笑顔の暮らし 受けようマンモグラフィ検診



桑野協立病院は  
マンモグラフィ施設認定に合格しています

精度管理中央委員会施設画像評価認定  
マンモグラフィ読影資格医師複数常勤(2名)  
マンモグラフィ撮影資格診療放射線技師複数  
(女性技師2名)

ガイドライン適合機種の設定  
定期的品質管理

検診の受け方

40歳以上の女性の方

2年に1度 視触診とマンモグラフィ撮影

検診料金 詳しくは、桑野協立病院健康管理課まで  
電話024(923)6177 内線(327)



施設認定取得の  
マンモグラフィ装置

検診施設画像認定書

# 乳がんQ&A

## 乳がん検診の検査方法ってどんなのがあるの？

乳がんを調べるにはセルフチェック（自己検診）と医療機関での検診があります。セルフチェックは生理が始まって一週間後ぐらいに行います。生理前だと乳房に痛みや張りがあり、正確な判断がしづらいためです。閉経後の人は月に1度、日にちを決めて行うのがベター。毎月同じ時期にチェックすることで変化に気づきやすくなります。

医療機関では視触診や超音波（エコー）、マンモグラフィなどの検査を行います。セルフチェックで異常がなくても早期の乳がんが見つかることもあるので、定期検診を習慣づけたいものです。

## 検査でがんを発見できるのはどれくらいの確率？

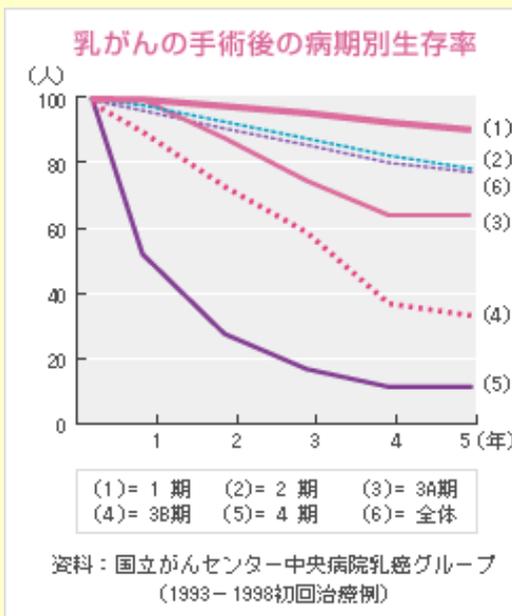
視触診、マンモグラフィ、超音波を併用することで、乳がんの約9割は発見することができるといわれています。

## 鏡に向かって

1. 鏡の前に自然な状態で立ち、両方の乳房に違和感がないかよく観察します。
2. 両手を上下し、正面・側面・斜めなどから乳房をよく観察します。



## 乳がんは治るの？



乳がんは治る病気です。ただ、それには早期発見が治癒の鍵を握ります。日本乳癌学会が乳がん患者の10年間の生存率を調べたところ、超早期のTisと呼ばれる段階では94.72%、しこりや画像診断（超音波・マンモグラフィ）などで病変部を確認できない10期では95.45%。ともに約95%の人が生存していました。

一方、しこりの大きさが5センチを越える a 期では58.74%、しこりの大きさを問わず他の臓器に転移が見られる 期では25.49%と生存率が下がっています。

早期発見・早期治療のためにも検診を忘れずに。



乳がん啓発キャンペーン

ピンクリボン in 郡山

桑野協立病院は、乳がん啓発キャンペーン  
ピンクリボンIn 郡山 に支援施設として協賛しています